



「海洋深層水はどう使われているのか？その3」

今回は、海洋深層水の3つの特徴「水温が低いこと（低温性）」「細菌やウィルスが少ないこと（清浄性）」「植物にとっての栄養がたくさん含まれること（富栄養性）」のうち、最後の「富栄養性」について紹介します。

生物の少ないきれいな海水なのに、栄養が多い、って少し不思議な感じがしませんか？ 栄養があったら、そこに生物がたくさん集まって来そうな気がします。この不思議な性質の成り立ちには、地球の生態系の化学が深く関わっています。

真っ暗な深海では、植物は生きていくことができません。なぜなら、太陽の光が届くのは水深およそ200mまでで、そこから先は植物の生存に必要な光合成ができなくなるためです。では、植物という基本的な食べものがない深海の生き物は、何を食べて生きているのでしょうか？ 一番の栄養源は、浅い海から降ってくるマリンスノー（浅い海のプランクトンの死骸や生き物のフンがかたまりになって雪のように降ってくるもの）です。貴重な食べものなので、マリンスノーは「もうこれ以上は分解できない」というところまで深海生物そしてバクテリアに利用しつくされ、最後に残るのが「無機栄養塩」と呼ばれる物質…実はこれが、植物だけしか利用できない栄養分なのです。身近な例では、農作物を育てる肥料に入っている窒素(N)やリン(P)が、無機栄養塩ですね。



前置きが長くなってしまいましたが、この「富栄養性」という特徴は、海藻を育てるのに有効です。久米島では今、海洋深層水を使って、海洋環境の変化によって他の産地で採れなくなってしまった海藻の養殖試験や、健康食品等の材料となる微細藻類の培養等が行われています。海藻の養殖は世界的に伸びている分野なので、今後の拡大が期待されています。

さて、ここまで3回、海洋深層水の特徴ごとの利用方法を紹介してきました。次回は、こういった利用をより効果的に行う、海洋深層水の多段階利用について紹介します。

(一社) GOSEA 事務局 岡村 盡 (地域おこし企業人)
久米島町プロジェクト推進課

公共施設の適正管理に係る民間提案制度の導入と バーデハウス久米島の再開に向けた取り組みについて



公共施設等の整備・運営に、民間の資金や技術、ノウハウを最大限活用する手法の導入が全国的に広がるなか、本町でも第2次総合計画後期基本計画に、「民間活力の導入推進」を掲げました。

この推進に向けて「民間提案制度」に関する基礎知識の習得と理解の促進を目的として、役場職員・議会議員向けの研修会を7月7日に開催し、講師の寺沢弘樹氏（合同会社まちみらい代表）から、全国の地方自治体における公共施設管理分野での民間提案制度の導入事例についてご高話頂きました。



▲ 役場職員を対象としたワークショップ

また、翌8日には寺沢氏の助言等を得ながら、役場職員によるワークショップを行い、「民間提案制度を活用したバーデハウス久米島の再開」をモデルケースに課題の抽出や整理、ビジョン・コンテンツの検討を通して、効率的・効果的な公共施設マネジメントの在り方を学ぶとともに、バーデハウスの再開に向け議論を深めました。

お問合せ 商工観光課 ☎985-7131

Universal Design



本誌はメディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザー検定3級取得者の確認・校正作業を経て発刊しています。

UD FONT

広報誌「広報くめじま」はユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

2021(令和3年)9月号 発行/久米島町役場 編集/久米島町役場総務課 TEL.098-985-7121 FAX.098-985-7080

久米島町役場ホームページ <http://www.town.kumejima.okinawa.jp> FMラジオ/ラジオ広報ハイサイくめじま 平日午前10時~11時・午後5時~6時[再放送]